

理数教育のリーダーへ

愛媛大で
キャンプ 県内外から17人

地域で理数教育の中核を担う人材を育てる「サイエンス・リーダーズ・キャンプ」が2

日、松山市文京町の愛媛大で始まった。県内外の高校教諭17人が生物分野の授業に生かそうと、同大ミュージア

学研究センターが実験機関となっている。3泊4日の日程で5班に分かれ研修を受ける。初日は、同センターの林秀則教授「植物生理学Ⅱが、DNAや多種多様なタンパク質の働きを解説。参加者は、オワンクラゲの光るタンパク質のDNAを大腸菌に導入し、目的のタンパク質を作らせる実験などに挑戦した。



真剣な表情で学生からタンパク質合成実験の説明を聞く高校教諭(右)＝2日、松山市文京町の愛媛大

酵素の働きを知る実験や、アサリの水質浄化作用の実験など各校の取り組みも発表し

た。

福岡県立明善高校(久留米市城南町)の大沢真一教諭(31)は、キャンプで取り組んだ実験を授業に反映し、生徒にも先端研究を体験させる考えで「プログラムの内容が丁寧で、有意義な研修」と評価していた。

(長谷川悠介)

